

□

(1)

θ は次の 2 条件を満たす。

$$\forall u \in \theta \quad [\bigcup_{v \in \theta} u = \theta]$$

$$\forall u \in \theta \quad [u < \theta \Rightarrow \bigcap_{v \in \theta} u = \emptyset]$$

$$(u_n := \bigcap_{v \in u} v, \bigcup u = \bigcup_{n \in \omega} u_n)$$

(2)

M^c : M に含まれる最大の開集合。

M^c : M を含む閉集合で最小の集合。

(2) 最弱位相: $\theta = \{\emptyset, S\}$ など。

最強位相: $\theta = P(S)$ など。

□

(1)

$$\{U \times V \mid U \in \mathcal{B}, V \in \mathcal{C}\}$$

(2) $g: T \rightarrow \mathbb{R}$ を連続写像とする。

S が連結のとき、合成写像 $g \circ f$ は定数函数であるから、 g も定数函数となる。よって T も連結である。

(1) θ が次の条件を満たす。

θ はハウスドルフであるといふ。

・任意の $x, y \in S$ に $x \neq y$ ならば x, y のある開近傍 U, V で $U \cap V = \emptyset$ を満たすものが存在する。

(2) S の開集合の任意の族 $(U_i)_{i \in I}$ について、次が成り立つとき、 S はコンパクトであるといふ。

・ $A \subset \bigcup_{i \in I} U_i$ ならば $[I]$ の有限部分集合 $\{i_1, \dots, i_n\}$ で、

$$A \subset U_{i_1} \cup \dots \cup U_{i_n}$$

を満たすものがある。

(3)

S の開集合系の基底で可算集合であるものが存在するとき、 S は第2可算公理を満たすといふ。

□

$$\mathcal{O}_d = \left\{ U \in P(S) \mid \forall x \in U \exists \varepsilon > 0 [B(x, \varepsilon) \subset U] \right\}$$

$$(B(x, \varepsilon) := \{y \in S \mid d(x, y) < \varepsilon\})$$